

## まあるい瞳で…～おめめどうから幼児期へのお手伝い～

<幼児期へのお手伝い2>

### 2、スケジュールで見通し(いつ、なにがあるの?)をたてる

時間や予定を日常的に伝えるということ

幼児期や知的に重い場合は、「時計を理解すること」や「時間的なことを計ること」が苦手なお子さんが多いと思います。想像をしても、いつまでこれをするのか、何時になったらそれは終わるのか、次はどんなことがあるのか…それが全く分からない状態というのは誰も不安になりますし、次の流れが分からないだけにその時していることを止められない(固執してしまう)ということもあるでしょう。

私たちは、何となく見通しをたてたり、予想をして1日を過ごしていきますが、障害を持つお子さんにはきちんと見える形で予定や流れを伝えていくとお子さんにとって生活は安心できるものになってゆきます。

具体的にはどうしたらいいの?

最初は「今はこれをしている」、それから「次は何がある」という事をいつも伝えるようにしていきます。

伝える方法ですが、ここで「本人がわかるものを使う」ということがとても重要になります。口で言って伝える方法は障害を持ったお子さんには伝わりにくいので、絵や写真がついた目で見て分かる情報で伝える事ももちろんですが、その中でもこれでお子さんに伝わっているのか?が重要です。私だって、アラビア語で予定を書かれたカードを見せられても、次に何が起るのか全くわかりません。

だから、お子さんがわかる情報を見つけていく作業が必要になっていきます。また、押し付けられた順番より、本人が動きやすい順番の方が良いでしょう。いつも本人の気持ちを考えて伝えて下さい。

### ● ● 伝えるためのコツ! ● ●

#### どんなものを見せて伝えるか…

お風呂にはいる時は、お風呂で遊ぶアヒルの人形。寝に行くときには、お気に入りの枕。そんな風に、「お子さんに必要な事柄がどの情報なら本人に分かるか」を見つけ、あるいは色々と試してみて続ける中で探っていきます。生活の色々なシーンで使えるようにそれを貯めていきましょう。

写真を撮ってそれを見せるのも効果的な方法です。しかし撮る時は、子供の目線からの画像にすることが重要です。見ているもの、興味のあるものは何かを観察してみましよう。

シンボルは、これは自分にとって意味があるみたいだ(大人が何かを伝えてくれているぞ)という事が、わかってから伝わっていくものです。そのため、幼児期では、わかるものは少ないかもしれません。とはいえ、どんな情報でも最初からわかるものはありません。

#### まずはどんなことから始めていくか…

大人が見せてくれるものが、自分にとって意味があると読み取る力が必要になっていくわけですから、最初は必ず「本人が得する情報」から見せることが大切です。損するものから始めると、見なくなりますよ。最初に指示や禁止ばかりを見せてしまうので、「うちの子(園児)はわからない」という人がでてくるのです。

お子さんにわかる情報が、最初のコミュニケーションアイテムになります。それが見つかると、次は、わかる情報だけを並べて、計画をたててスケジュールを伝えていきます。伝わる情報で、本人に必要な(知りたい)時間の見通しを立ててください。だいたい4歳をすぎて、先の情報が欲しくなった頃からゆるやかに始めたらいいでしょう。